

令和2年度 学校経営計画に対する自己評価計画書(中間報告)

石川県立門前高等学校

重点目標 ① 主体的で対話的な深い学びの実現をめざして、ICTを活用した授業改善を図る。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析(成果と課題)及び今後の対応策	備考	
基礎学力及び家庭学習の定着	生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善の促進	教務課 進路指導課 各学年	生徒の授業態度は概ね良好だが、自ら学び理解を深める意識の醸成が必要である。	【成果指標】(生徒) 「私は事前に予習や宿題等の授業の準備をして臨んでいる」	「私は事前に予習や宿題等の準備をして授業に臨んでいる」と評価した生徒の割合(①+②)が A 75%以上 B 65%以上 C 65%未満	① 必ず準備をして臨んでいる。 23% ② だいたい準備して臨んでいる。 46% ③ あまりやらずに授業を受けている。 23% ④ 全くやらずに授業を受けている。 8%	B	【分析】教員からの課題提示があれば取り組む生徒は多い。自分から自主的に取り組む生徒を増やすとともに家庭学習習慣を身につくよう指導していきたい。 【今後の対応】個々に応じた学習方法が身につくよう支援する。	生徒対象調査(7, 12月)
	生徒の思考力・判断力・表現力の向上	生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善の促進	教務課 進路指導課	生徒の授業理解度は高いが、今後自分の意見を発信し相手と対話しながら物事を進める力を身につける必要がある。	【成果指標】(生徒) 「根拠に基づき、自分の意見を表現する(発表する)力が身についた」と評価した生徒の割合(①+②)が A 85%以上 B 75%以上 C 75%未満	① 身についた。 15% ② だいたい身についた。 61% ③ 余り身につけていない。 19% ④ 全く身につけていない。 5%	B	【分析】発表型の授業が増えて自分の意見を表現する力が概ね身についたという実感が高まってきている。 【今後の対応】自分の意見を表現できる課題を増やすとともに課題に対して「なぜ?」と考える活動を継続し、深い学びにつながるよう発問を工夫する。	生徒対象調査(7, 12月)
	門高読書タイムや図書館講座の実施	図書課 教務課 進路指導課	読書活動を通して生徒の思考力・表現力・判断力の下支えする力を養成する必要がある。	【成果指標】(生徒) 「年間3冊以上の本を読んだ(読書タイムに読んだ本も含む)」	「年間3冊以上の本を読んだ」と答えた生徒の割合(①)が A 60%以上 B 50%以上 C 50%未満	① 3冊以上読んだ 24% ② 2冊読んだ 15% ③ 1冊読んだ 26% ④ 1冊も読まなかった 35%	C	【分析】2冊以上の割合も4割程度で、3冊以上も少ない。 【今後の対応】読書タイム期間に限らず、教科指導等の場でも積極的に学校図書館を活用したり、各クラスに本を設置するなど、本を身近に感じられる環境づくりを行う。	生徒対象調査(7, 12月)
教員の授業力及び資質・能力の向上	教員による「学校評価アンケート」の結果に基づく授業改善	教務課 進路指導課	新学習指導要領が求める生徒の資質・能力を育成するために、教員の探究的な学習指導スキルの向上が必要である。	【成果指標】(教員) 「生徒の思考力・表現力を高めるために発表型の授業を実施している」	「生徒の思考力・表現力を高めるために発表型の授業を実施している」と評価した教員の割合(①+②)が A 85%以上 B 75%以上 C 75%未満	① 実施している 33% ② 概ね実施している 60% ③ 余り実施していない 7% ④ 全く実施していない 0%	A	【分析】発表型の授業を実施している割合が高くなってきている。 【今後の対応】互見授業や小中学校の公開授業を通じて自己研鑽の啓発を継続していく。	教員対象調査(7, 12月)
	生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善の促進			【成果指標】(生徒) 「ICT機器により授業の理解度が高まった」	「ICT機器を効果的に使っている」と評価した生徒の割合(①+②)が A 85%以上 B 75%以上 C 75%未満	① 実施している 60% ② 概ね実施している 33% ③ 余り実施していない 7% ④ 全く実施していない 0%	A	【分析】稼働率は非常に高くなってきている。 【今後の対応】教員だけでなく生徒が使えるICT機器の整備をしていく必要がある。	生徒対象調査(7, 12月)

重点目標 ② キャリア教育の充実と3年間を見通した学力の向上計画によって、多様な進路実現を図る。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析（成果と課題）及び今後の対応策	備考	
・進路意識の醸成と早期確立	・外部講師によるキャリア教育講演会 ・クリエイティブ人材育成事業 ・企業人インタビューDVDの活用 ・インターンシップ ・進路講演会 ・進路学習 ・上級学校キャンパスツアー	進路指導課 各学年	・働くことの意味や自分の適性を理解して、将来の進路設計を立てる力を養成する必要がある。	【努力指標】（生徒） 「自分の適性を十分に把握し、将来の進路について話すことができるようになった」	「自分の適性を十分に把握し、将来の進路について話すことができるようになった」と評価した生徒の割合(①+②)が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A	【分析】各取組を通じて、生徒は進路について考えることができているが、②の割合が多い。 【今後の対応】①の割合が多くなり③④の割合が少なくなるよう、進路について調べたり表現したりする機会を設けていく。	生徒対象調査(7, 12月)	
					① できるようになった。				18%
					② だいたいできるようになった。				68%
					③ ほとんどできない。				12%
④ 全くできない。	3%								
・個に応じた学習指導の充実による進路実現	・習熟度別授業 ・放課後補習 ・個別指導	進路指導課 教務課 各学年 各教科	・多様な進路志望の生徒に応じた指導の更なる充実が求められている。 ・大学進学を目指す生徒への個に応じた学習指導の向上が求められている。	【成果指標】（教員） (1・2年生) 「対外模試の成績を伸ばすことができた」	「対外模試の成績を伸ばすことができた」生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	-	【分析】 【今後の対応】	対外模試結果	
					7月と1月ベネッセ総合学力テストの比較(全国偏差値)				
					① 満足している				
					② だいたい満足している				
③ 余り満足していない									
④ 全く満足していない									
					3年生の最後に答えます				
・クリエイティブ人材育成事業による生徒支援の充実と進路実現	・ふるさとへの愛着心を涵養し、能登の産業に貢献する意欲を持った人材を育成する企業見学、講演会、校内研修会の実施	進路指導課 全教員	・就職を希望する生徒の大半は地元を希望するが、進学後に地元就職を希望する生徒は少ない。	【成果指標】（生徒） 「企業見学・講演会等により能登の産業について理解を深め、地元産業に貢献する意欲を持つことができた」	「卒業後の自分の進路決定について満足している」と評価した生徒の割合(①+②)が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	-	【分析】 【今後の対応】	生徒対象調査(7, 12月)	
					① できた				42%
					② まあまあできた				43%
					③ 余りできなかった				9%
④ できなかった	6%								
					3年生の最後に答えます				
・クリエイティブ人材育成事業による生徒支援の充実と進路実現	・ふるさとへの愛着心を涵養し、能登の産業に貢献する意欲を持った人材を育成する企業見学、講演会、校内研修会の実施	進路指導課 全教員	・就職を希望する生徒の大半は地元を希望するが、進学後に地元就職を希望する生徒は少ない。	【成果指標】（生徒） 「企業見学・講演会等により能登の産業について理解を深め、地元産業に貢献する意欲を持つことができた」	「企業見学・講演会等により能登の産業について理解を深め、地元産業に貢献する意欲を持つことができた」と答えた生徒の割合(①+②)が A 85%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満	A	【分析】各取組を通じて、地元産業への理解は深まっている。 【今後の対応】今後も能登に関連した企業見学・講演会等を実施することで、地元産業への理解および貢献意欲の向上を図る。	生徒対象調査(7, 1月)	
					① できた				42%
					② まあまあできた				43%
					③ 余りできなかった				9%
④ できなかった	6%								

重点目標 ③ ワークライフバランスを取りながら、部活動やボランティア活動によって、学校の活性化を図る。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析（成果と課題）及び今後の対応策	備考		
・教員の働き方改革の推進	・部活動年間計画、月別活動計画作成及び見直し ・計画的、協働的な校務の推進 ・定時退庁日の設定 ・最終退校時間の設定と実践	全教員	・教員の多忙化解消に向けた取組の実践が喫緊の課題である。	【成果指標】（教員） 「最終退校時間を意識した業務の推進に向けて、計画的・効率的に校務を行っている」	「最終退校時間を意識した業務の推進に向けて、計画的・効率的に校務を行っている」と答えた教員の割合（①+②）が	① 行っている	31%	D	【分析】約半数が行っていないと答えている。 【今後の対応】効率よく業務をこなせるような工夫をすることと、特定の教員に業務が偏らないようにしていく。	教員対象調査（7, 12月）
					A 85%以上	② 概ね行っている	25%			
					B 75%以上	③ 余り行っていない	19%			
					C 65%以上	④ 全く行っていない	25%			
D 65%未満										
・各種行事・諸活動への自主的参加	・各種校内行事 ・学校企画の諸活動 ・学校祭等の生徒会活動	生徒会 総務課	・どの活動においても概ね意欲的に参加しているが、より自主的な活動になるよう指導し、良好な人間関係形成や自己有用感の向上につなげる。	【成果指標】（生徒） 「各種校内行事に自主的に参加し、自己の役割を果たした」	「各種校内行事に自主的に参加し、自己の役割を果たした」と実感できた生徒の割合（①+②）が	① 果たせた	36%	A	【分析】役割を果たしたと感じている生徒が86%という数値であった。 【今後の対応】役割を果たせていないと感じる生徒もいるので、どの生徒でも積極的に参加できるような具体的な取り組みを考える。	生徒対象調査（7, 12月）
					A 85%以上	② だいたい果たせた	50%			
					B 70%以上	③ 余り果たせていない	12%			
					C 60%以上	④ 全く果たせていない	1%			
D 60%未満										
・部活動を通じた人間力の育成	・競技力、表現力向上を目指した日々の取組	生徒会 部顧問	・限られた時間を有効に活用し、競技力・表現力の質の向上を目指すことで個々の人間力を高める。	【成果指標】（生徒） 「自主的に部活動に取り組むことで、自分が成長した」	「自主的に部活動に取り組むことで、自分が成長した」と感じた生徒の割合（①+②）が	① できた	58%	A	【分析】日々の活動で、自分の様々な成長を自覚できている生徒が多い。 【今後の対応】全くできていないの数値が増えているので、何らかの役割を与えるなど成長を感じられる環境づくりを行う。	生徒対象調査（7, 12月）
					A 85%以上	② だいたいできた	27%			
					B 75%以上	③ 余りできていない	9%			
					C 65%以上	④ 全くできていない	5%			
D 65%未満										
・ボランティア活動による地域・他者貢献意識の高揚	・総持寺参道清掃 ・海岸清掃 ・暑中見舞い、年賀状作成、等	総務課 生徒会 全校生徒	・部活動単位でのボランティア活動には参加しているが、今後自主的に参加する姿勢を涵養していく。	【成果指標】（生徒） 「参道清掃・海岸清掃などの学校行事も含めた各種ボランティア活動に年3回以上参加した」	「参道清掃・海岸清掃などの学校行事も含めた各種ボランティア活動に年3回以上参加した」と答えた生徒の割合（①）が	① 3回以上参加した	24%	D	【分析】ボランティア活動という意識が薄いため自覚を持って取り組めていないのではないか。 【今後の対応】個人でも参加できるような環境をつくる。普段の活動に対する意識づけを行う。	生徒対象調査（7, 12月）
					A 90%以上	② 2回参加した	39%			
					B 80%以上	③ 1回参加した	30%			
					C 70%以上	④ 全く参加していない	7%			
D 70%未満										
・各種地域行事への参加	総務課 ボランティア部	・過疎化が進み、独居老人が増えている。そのお年寄りたちの参加する各種地域のイベントに積極的に協力することで他者や地域貢献の精神を涵養する。	【満足度指標】（生徒） 「ボランティア活動を通して、他者や地域への貢献の意義を理解できた」	「ボランティア活動を通して、他者や地域への貢献の意義を理解できた」と答えた生徒の割合（①+②）が	① できた	46%	B	【分析】数値は改善されたが、意義を理解していない生徒が数名いる。 【今後の対応】各行事の意義を教員側から伝えるなど、活動への意識を高める。	生徒対象調査（7, 12月）	
				A 90%以上	② だいたいできた	36%				
				B 80%以上	③ 余りできていない	11%				
				C 70%以上	④ 全くできていない	7%				
D 70%未満										

重点目標 ④ 安心・安全な学校づくりを推進する。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析（成果と課題）及び今後の対応策	備考				
・いじめの早期発見・早期対応	・いじめに関する校内研修 ・生徒観察、生徒との人間関係づくりによる早期発見・早期対応 ・いじめ調査の実施	生徒指導課 教育相談 教員全員	・昨年度は認知無しだったが、「いじめは起こりえるもの」の意識を教員が常に持ち、未然防止に尽力する。 ・生徒の自己有用感を高め良好な人間関係づくりを進める取組を継続する。	【成果指標】（教員） 「研修会等によって、いじめ問題について理解を深め、予防的生徒指導に結びつけている」と答えた教員の割合（①+②）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① できる 38%	A	【分析および今後の対応】 昨年度の最終報告では「余りできない」「全くできない」教員の数は0だったが、今年度は「余りできない」と答えた教員もいた。今期はコロナの影響もあり、いじめに関する研修場を持っていないので、時期をみて研修および共通理解の場を設けていきたい。	教員対象調査 (7, 12月)				
					② 概ねできる 56%							
					③ 余りできない 7%							
					④ 全くできない 0%							
・スマートフォン等によるネットトラブルの未然防止	・スマートフォン等によるネットトラブル研修	生徒指導課 教育相談 教員全員	・校内での使用ルールは浸透しているが、家族との連絡以外に放課後使用する生徒が依然見られる。今後もスマートフォン等の危険性を説明し、指導を継続しながら生徒自身がその危険性を意識できるようにする。	【成果指標】（生徒） 「私は校内でのスマートフォンや携帯電話の使用ルールを守っている」と評価した生徒の割合（①+②）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① 守れた 76%	A	【分析および今後の対応】 昨年度とくらべて「守れた」と答える生徒の割合は高くなった。しかし、「だいたい守れた」「余り守っていない」という生徒を合わせると2割以上いるので、SNS等の安全な使用の仕方についての指導も含め、継続的な指導が必要である。	生徒対象調査 (7, 12月)				
					② だいたい守れた 22%							
					③ 余り守っていない 2%							
					④ 全く守っていない 0%							
		保護者	・使用時間・内容など、スマートフォン（携帯電話）等の使用のルール作りについて、継続して家庭での協力を求める。	【努力指標】（保護者） 「家庭でスマートフォンや携帯電話等の使用の仕方について話し合い、実践している」と評価した保護者の割合（①）が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	【成果指標】（教員） 「私はスマートフォン等のネットトラブルの危険性を理解し、指導に生かしている」と評価した教員の割合（①+②）が A 85%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	① 理解している 69%	A	【分析および今後の対応】 生徒の使用マナーについては、校内での使用の仕方も含め、すべての教員が生徒に対して適切に指導が出来るようにせねばならない。トラブルの内容が多様化してきているので、研修および共通理解の場を設けていきたい。	教員対象調査 (7, 12月)			
						② だいたい理解している 24%						
						③ 余り理解していない 7%						
						④ 全く理解していない 0%						
						① 実践した 68%				B	【分析・今後の対応】 今年度は休校期間もあり、家庭で話し合う時間が増えたということも考えられ、昨年度よりも数値が高まった。情報発信のしかたなどをさらに工夫し、さらなる啓発に努めたい。	保護者アンケート（7月、12月）
						② 実践していない 32%						
・通学時の交通安全	・自転車マナー指導 ・教職員・PTAによる街頭指導 ・交通安全に関する調査	生徒指導課	・自転車マナーに関する指導を受けた生徒は昨年度いなかったが、保護者・地域の方にも協力を仰ぎながら今後も生徒の規範意識向上に取り組む。	【努力目標】（教員） 「生徒の交通安全意識向上のための指導として、街頭指導の参加、普段の日の登下校時での交通安全の声かけなどを積極的に取り組んだ」と答えた教員の割合（①）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① できた 56%	A	【分析・今後の対応】 今年度はほとんどの教職員は交通安全に関する行事に参加できていないが、グッドマナーキャンペーンの取組で、全職員が参加する見通しである。通学路の安全確保、安全な通学のしかたの指導双方を充実させ、安心安全な学校づくりに努めたい。	教員対象調査 (7, 12月)				
					② だいたいできた 37%							
					③ 余りできていない 7%							
					④ 全くできていない 0%							